

御座います。……或は勞働組合をわんく作らして彼
と是とを相並ゆ走るやうにしたり宜からう。又或る場
合には政府は相當なる法に依つて檢束すべきは檢束し
、折合ふべきは折合はせることは何ぞ難きことあらん
と言ふことと言ふを得らませうけれども、前に申す俄
の變遷と言ふものは唯それだけの一片の道理で円満に
物が進んで行くと云ふことと如何あらうかと私共懸念
致すので御座います。或は資本者側から申しますと、
何うも今日の勞働者は自己の信念が全しい、所謂優遇
すれば益は望み強くすると言ふ癖がある。果して
時を大切にしていれば實に能率に力を入れる、我職務の令解
を明かに理解すると云ふことが出来ぬ。而して自分等
は大なる資本を以て此の事業を企てる、唯それのみ

力を盡す。勞働者の待遇にのみ力を盡すことは出来ぬ
のではなからうか。又彼是と論理を進め、其の進める論理
は寧ろ議論を生むるの嫌ひを惹起す譯になる。寧ろ成
るべく黙して呉れるのさ好むと言ふやうな有様か先が
近頃までは押並へて風習と申して宜かつたやうな御座
います。前に申すヨーロッパ的の事業に依つて矢張り大
なる會社の經營は皆今私の申す述べたやうなとは申上
りませぬけれども、矢が一般に概言すれば資本者側の
勞働者に対する概括的の評論は今のやうな有様と申し
て宜からうと思ふ。之に及んで勞働者側は大に其の意
解を異にする。殊に今申上げました通り時代の變化、
即ち物價の昂騰、生活の困難、且つ茲に現然現はれて
來たのは其の事業に対する俄の利益、この俄の利益は